

科目名	工業デザイン (FT000300)
英文科目名	Industrial Design
担当教員名	松本恭吾 * (まつもと きょうご *)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	デザイン史、工業デザインの概要 1、身近な工業デザイン 工業デザインとは。 身近な工業製品を観察しスケッチする。
2 回	デザイン史、プロダクトデザインの概要 2 色彩、造形心理、人間工学について解説する。岡山県、中国地方で生産されているの工業デザイン等について知る。現在活躍している工業デザイナーのデザインプロセスについても解説する。
3 回	ユニバーサルデザイン 社会的視点から工業デザインを読み解く。
4 回	製図演習 身近な工業製品を計測し三面図を描く。
5 回	ドローイング演習「パースを描く」 身近な工業デザイン製品を観察しパースを使って描く。色鉛筆を使ったシンプルなスケッチのコツも学んでいく。
6 回	デザインワークショップA-1 リサーチと自分の体験を組み合わせ、デザインの核となるアイデアを探す。
7 回	デザインワークショップA-2 デザインコンセプトを明確化し文字とスケッチなどを使い企画書として紙面化する。
8 回	仕組みから見る工業デザイン 構造の面からデザインを観察する。「シャープペンシル」や、「修正テープ」など簡単で自分で分解可能な工業製品を分解し、そこにある仕組みや工夫をスケッチをとりながら観察する。
9 回	デザインワークショップB -1 (「楽しくなる学びのデザイン」) アイデア発想 1。自分の記憶や体験からデザインのきっかけを探る。他のデザイン事例もリサーチしそのコンセプトと手法を分析する。アイデアを出すためのブレインストーミングを行う。
10 回	デザインワークショップB-2 アイデア発想2。リサーチやインタビューなどを行い、アイデアを展開し方向性を決定する。様々なデザイン事例、実際のデザインプロセス事例を見て応用していく。
11 回	デザインワークショップB-3 アイデアスケッチを描く。コンセプトを短い文章にまとめ、仮の製品名を付ける。
12 回	デザインワークショップB-4 形を決定し図面化する。ボール紙や段ボール等で実寸大のモデルを作る。
13 回	デザインワークショップB-5 モデルを完成させる。それを検証し改訂版のモデルを再制作する。
14 回	デザインワークショップB-6。プレゼンテーション準備 コンセプト、説明を文章としてまとめる。紙モデルの写真を撮影。追加のスケッチ、チャート等を描いていく。企画書の形に体裁を整え、第三者に自分の考案したデザインの新しさ、面白さが伝わるよう文章を推敲していく。プレゼンテーションの練習を行う。
15 回	デザインワークショップB-7 プレゼンテーション、講評。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	配布するテキストの該当箇所を読んでおくこと。観察しがいがありそうな工業製品をいくつか用意しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	配布する資料のユニバーサルデザインの原則について読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
5 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6 回	配布する資料の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
7 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
8 回	自分で分解でき、元に修復可能であろう工業製品を探してくること。

9 回	配布する資料を読んでおくこと。デザインのヒントになりそうな現在使っている学習の為の道具、かつて愛用していた学びの為の道具等を探しておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	配布するアイデアを展開する為の手法についての資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
11 回	配布する資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
12 回	配布する資料を読んでおくこと。必要になりそうなモデル制作の為の材料と道具を探しておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	配布する資料を読んでおくこと。写真をプリントアウトしておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	完成に向け写真、データ、インタビューなどをまとめ揃えておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	配布する資料を読んでおくこと。プレゼンテーションの準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	この講義では社会の中で多様な役割を果たしている工業デザインについて学んでいく。 デザインとは単に格好良さ、可愛さ、スタイリッシュさを提示するだけではない。優れたデザインの核には本質的なコンセプトや思考、社会との関係の追求がある。 本講義では工業デザインの歴史や概要、デザイナーについて知るだけでなく、簡単ではあるが受講生が個々にデザインを考案しながら深く体験を通じてデザインの知識と教養を身に付ける。 グラフィックデザイン、コミュニティデザインなど工業デザイン周辺分野についても解説していく。 * 本講義は工学部の「教育課程編成・実施の方針」の「D」に関連した科目である。
達成目標	工業デザインの基礎知識の習得を目標とする。 簡単な図面、パースを描く技術を身に付ける。総合的に工業デザインを理解し、ある工業製品の観察した時、様々な角度から分析しそのデザインを自分なりに評価できるようになること。
キーワード	生活器具、産業機器、繊維・服飾、工芸品家具、インテリア、形、立体感、ボリューム感、質感、空間、パースペクティブ、構図、構成、観察力、発想力、表現力
試験実施	実施する
成績評価（合格基準60点）	合格基準（60点） 課題提出（100%）により評価する。
教科書	なし
関連科目	なし
参考書	教科書ユニバーサルデザインの教科書（増補改訂版）／中川 聡 監修／日経デザイン 編／日経BP社／ISBN 978-482221547-7 プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識／ワークスコーポレーション／ISBN-1486267173X 参考書は適宜指示する。
連絡先	なし
授業の運営方針	デザインに対する知識を得ること、デザイン実践をすることでデザインに対する立体的理解を深められるよう講義を進める。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク。ドローイング実習、デザインワークショップを行い、デザインについて実践的に学ぶ。
課題に対するフィードバック	提出物を採点し返却する。返却時、個々に講評を入れる。最終課題は全員がプレゼンテーションを行い、それぞれを講評する。
合理的配慮が必要な学生への対応	録音は許可します。本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	A) アーティストとして活動中 I) 国内外でのアート活動の経験を生かして、デザインの持つさまざまな側面について実践を伴った授業を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	工業デザイン (FT000310)
英文科目名	Industrial Design
担当教員名	松本恭吾 * (まつもと きょうご *)
対象学年	2 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	デザイン史、工業デザインの概要 1、身近な工業デザイン 工業デザインとは。 身近な工業製品を観察しスケッチする。
2 回	デザイン史、プロダクトデザインの概要 2 色彩、造形心理、人間工学について解説する。岡山県、中国地方で生産されているの工業デザイン等について知る。現在活躍している工業デザイナーのデザインプロセスについても解説する。
3 回	ユニバーサルデザイン 社会的視点から工業デザインを読み解く。
4 回	製図演習 身近な工業製品を計測し三面図を描く。
5 回	ドローイング演習「パースを描く」 身近な工業デザイン製品を観察しパースを使って描く。色鉛筆を使ったシンプルなスケッチのコツも学んでいく。
6 回	デザインワークショップA-1 リサーチと自分の体験を組み合わせ、デザインの核となるアイデアを探す。
7 回	デザインワークショップA-2 デザインコンセプトを明確化し文字とスケッチなどを使い企画書として紙面化する。
8 回	仕組みから見る工業デザイン 構造の面からデザインを観察する。「シャープペンシル」や、「修正テープ」など簡単で自分で分解可能な工業製品を分解し、そこにある仕組みや工夫をスケッチをとりながら観察する。
9 回	デザインワークショップB -1 (「楽しくなる学びのデザイン」) アイデア発想 1。自分の記憶や体験からデザインのきっかけを探る。他のデザイン事例もリサーチしそのコンセプトと手法を分析する。アイデアを出すためのブレインストーミングを行う。
10 回	デザインワークショップB-2 アイデア発想2。リサーチやインタビューなどを行い、アイデアを展開し方向性を決定する。様々なデザイン事例、実際のデザインプロセス事例を見て応用していく。
11 回	デザインワークショップB-3 アイデアスケッチを描く。コンセプトを短い文章にまとめ、仮の製品名を付ける。
12 回	デザインワークショップB-4 形を決定し図面化する。ボール紙や段ボール等で実寸大のモデルを作る。
13 回	デザインワークショップB-5 モデルを完成させる。それを検証し改訂版のモデルを再制作する。
14 回	デザインワークショップB-6。プレゼンテーション準備 コンセプト、説明を文章としてまとめる。紙モデルの写真を撮影。追加のスケッチ、チャート等を描いていく。企画書の形に体裁を整え、第三者に自分の考案したデザインの新しさ、面白さが伝わるよう文章を推敲していく。プレゼンテーションの練習を行う。
15 回	デザインワークショップB-7 プレゼンテーション、講評。

回数	準備学習
1 回	シラバスをよく確認し学習の過程を把握しておくこと。(標準学習時間120分)
2 回	配布するテキストの該当箇所を読んでおくこと。観察しがいがありそうな工業製品をいくつか用意しておくこと。(標準学習時間120分)
3 回	配布する資料のユニバーサルデザインの原則について読んでおくこと。(標準学習時間120分)
4 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
5 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
6 回	配布する資料の該当箇所を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
7 回	配布する資料を読んでおくこと。(標準学習時間120分)
8 回	自分で分解でき、元に修復可能であろう工業製品を探してくること。

9 回	配布する資料を読んでおくこと。デザインのヒントになりそうな現在使っている学習の為の道具、かつて愛用していた学びの為の道具等を探しておくこと。（標準学習時間120分）
10 回	配布するアイデアを展開する為の手法についての資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
11 回	配布する資料を読んでおくこと。（標準学習時間120分）
12 回	配布する資料を読んでおくこと。必要になりそうなモデル制作の為の材料と道具を探しておくこと。（標準学習時間120分）
13 回	配布する資料を読んでおくこと。写真をプリントアウトしておくこと。（標準学習時間120分）
14 回	完成に向け写真、データ、インタビューなどをまとめ揃えておくこと。（標準学習時間120分）
15 回	配布する資料を読んでおくこと。プレゼンテーションの準備をしておくこと。（標準学習時間120分）

講義目的	この講義では社会の中で多様な役割を果たしている工業デザインについて学んでいく。 デザインとは単に格好良さ、可愛さ、スタイリッシュさを提示するだけではない。優れたデザインの核には本質的なコンセプトや思考、社会との関係の追求がある。 本講義では工業デザインの歴史や概要、デザイナーについて知るだけでなく、簡単ではあるが受講生が個々にデザインを考案しながら深く体験を通じてデザインの知識と教養を身に付ける。 グラフィックデザイン、コミュニティデザインなど工業デザイン周辺分野についても解説していく。 * 本講義は工学部の「教育課程編成・実施の方針」の「D」に関連した科目である。
達成目標	工業デザインの基礎知識の習得を目標とする。 簡単な図面、パースを描く技術を身に付ける。総合的に工業デザインを理解し、ある工業製品の観察した時、様々な角度から分析しそのデザインを自分なりに評価できるようになること。
キーワード	生活器具、産業機器、繊維・服飾、工芸品家具、インテリア、形、立体感、ボリューム感、質感、空間、パースペクティブ、構図、構成、観察力、発想力、表現力
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	合格基準（60点） 課題提出（100%）により評価する。
教科書	なし
関連科目	なし
参考書	教科書ユニバーサルデザインの教科書（増補改訂版）／中川 聡 監修／日経デザイン 編／日経BP社／ISBN 978-482221547-7 プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する71の知識／ワークスコーポレーション／ISBN-1486267173X 参考書は適宜指示する。
連絡先	なし
授業の運営方針	デザインに対する知識を得ること、デザイン実践をすることでデザインに対する立体的理解を深められるよう講義を進める。
アクティブ・ラーニング	課題解決学習、ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク。ドローイング実習、デザインワークショップを行い、デザインについて実践的に学ぶ。
課題に対するフィードバック	提出物を採点し返却する。返却時、個々に講評を入れる。最終課題は全員がプレゼンテーションを行い、それぞれを講評する。
合理的配慮が必要な学生への対応	録音は許可します。本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	A) アーティストとして活動中 I) 国内外でのアート活動の経験を生かして、デザインの持つさまざまな側面について実践を伴った授業を行う。
その他（注意・備考）	

科目名	上級数学 【水1水2】 (FT000400)
英文科目名	Differential Calculus
担当教員名	中川重和 (なかがわしげかず)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、講義の進め方を説明する。変数分離形微分方程式について説明する。
2 回	同次形微分方程式について説明する。
3 回	線形微分方程式について解説する。
4 回	線形微分方程式について演習する。
5 回	微分方程式の工学への応用について説明する。
6 回	微分方程式の工学への応用について演習する。
7 回	総合演習を行い、その後に解説する。
8 回	線形微分方程式について説明する。
9 回	線形微分方程式について説明する。
10 回	線形微分方程式について演習する。
11 回	線形微分方程式 (演算子による解法) について説明する。
12 回	線形微分方程式 (演算子による解法) について演習する。
13 回	線形微分方程式の級数による解法について説明する。
14 回	第1回から第14回までの講義内容のまとめをする。
15 回	学修達成度確認試験を実施し、その後に解説する。

回数	準備学習
1 回	第1回の授業までに解析学で使用したテキスト等により復習しておくこと (標準学習時間30分)
2 回	第2回の授業までにテキスト等により同次形微分方程式の予習を行うこと (標準学習時間30分)
3 回	変数分離形, 同次形について復習しておくこと 第3回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式について予習を行うこと (標準学習時間30分)
4 回	第4回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式について予習を行うこと (標準学習時間30分)
5 回	線形微分方程式について復習しておくこと 第5回の授業までにテキスト等により、微分方程式の工学への応用について予習を行うこと (標準学習時間30分)
6 回	第6回の授業までにテキスト等により、微分方程式の工学への応用について予習を行うこと (標準学習時間60分)
7 回	第1回から第6回の講義ノートの復習を行うこと (標準学習時間180分)
8 回	これまでに習ったことを復習しておくこと 第8回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式について予習を行うこと (標準学習時間60分)
9 回	第9回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式について予習を行うこと (標準学習時間60分)
10 回	第10回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式について予習を行うこと (標準学習時間30分)
11 回	線形微分方程式について復習しておくこと 第11回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式 (演算子による解法) について予習を行うこと (標準学習時間60分)
12 回	第12回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式 (演算子による解法) について予習を行うこと (標準学習時間60分)
13 回	線形微分方程式 (演算子による解法) について復習しておくこと 第13回の授業までにテキスト等により、線形微分方程式の級数による解法について予習を行うこと (標準学習時間60分)
14 回	第1回から第13回までの講義のノートの復習を行なうこと (標準学習時間120分)
15 回	第1回から第14回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	1年次に学ぶ微積分法の学習範囲より進んだ、工学を学ぶ上での必需品である微分方程式についての知識を例題、問題などの演習を通して身につけることを目標とする。実際、学科で2、3年次以降に学ぶ数学の特定分野の予習になっている。(学習評価4領域の「知識・理解」に強く関与する)
------	---

	)
達成目標	1. 1階微分方程式について説明ができる。(知識・理解) 2. 線形微分方程式についてについて解法の説明ができる。(知識・理解) 3. 学習過程で生じる数学的課題や疑問に対して、数式を用いて解答することができる。(思考・判断・表現) 4. 学習過程で生じる数学的課題や疑問に対して、適用可能な数学的定理や公式を自ら選択することができる。(思考・判断・表現、関心・意欲・態度) 5. 級数による微分方程式の解が計算ができる。(技能)
キーワード	変数分離形，同次形，線形微分方程式，微分演算子，級数
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	総合演習 評価割合40%（達成目標1-3を確認）、学修達成度確認試験 評価割合60%（達成目標2-5を確認）により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	微分方程式 / 矢野健太郎・石原繁 / 裳華房 / ISBN978-4-7853-1086-8
関連科目	数学（特に積分）を学んでいること。
参考書	各学科で指定している解析又は微積分の教科書
連絡先	研究室：B3号館4階 中川研究室 オフィスアワーはmylogを参照してください。
授業の運営方針	・授業は基本的に板書形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他（注意・備考）	高校で学習した数学の基本的な内容を復習することを望む。

科目名	上級数学 【水1水2】 (FT000500)
英文科目名	Integral Calculus
担当教員名	中川重和 (なかがわしげかず)
対象学年	1 年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1 回	オリエンテーション、講義の進め方を説明する。フーリエ級数について説明する。
2 回	フーリエ級数について説明する。
3 回	フーリエ級数の性質について解説する。
4 回	フーリエ級数の性質について演習する。
5 回	フーリエ級数の偏微分方程式への応用について説明する。
6 回	フーリエ級数の偏微分方程式への応用について演習する。
7 回	総合演習を行い、その後に解説する。
8 回	ラプラス変換について説明する。
9 回	ラプラス変換について説明する。
1 0 回	ラプラス変換について演習する。
1 1 回	ラプラス変換による線形微分方程式の解法について説明する。
1 2 回	ラプラス変換による線形微分方程式の解法について演習する。
1 3 回	デルタ関数とその応用について説明する。
1 4 回	第1回から第14回までの講義内容のまとめをする。
1 5 回	学修達成度確認試験を実施し、その後に解説する。

回数	準備学習
1 回	第1回の授業までに解析学で使用したテキスト等により復習しておくこと (標準学習時間30分)
2 回	第2回の授業までにテキスト等によりフーリエ級数の予習を行うこと (標準学習時間30分)
3 回	フーリエ級数について復習しておくこと 第3回の授業までにテキスト等により、フーリエ級数の性質について予習を行うこと (標準学習時間30分)
4 回	第4回の授業までにテキスト等により、フーリエ級数の性質について予習を行うこと (標準学習時間30分)
5 回	フーリエ級数の性質について復習しておくこと 第5回の授業までにテキスト等により、フーリエ級数の偏微分方程式への応用について予習を行うこと (標準学習時間30分)
6 回	第6回の授業までにテキスト等により、フーリエ級数の偏微分方程式への応用について予習を行うこと (標準学習時間60分)
7 回	第1回から第6回の講義ノートの復習を行うこと (標準学習時間180分)
8 回	これまでに習ったことを復習しておくこと 第8回の授業までにテキスト等により、ラプラス変換について予習を行うこと (標準学習時間60分)
9 回	第9回の授業までにテキスト等により、ラプラス変換について予習を行うこと (標準学習時間60分)
1 0 回	第10回の授業までにテキスト等により、ラプラス変換について予習を行うこと (標準学習時間30分)
1 1 回	線形微分方程式について復習しておくこと 第11回の授業までにテキスト等により、ラプラス変換による線形微分方程式の解法について予習を行うこと (標準学習時間60分)
1 2 回	第12回の授業までにテキスト等により、ラプラス変換による線形微分方程式の解法について予習を行うこと (標準学習時間60分)
1 3 回	ラプラス変換による線形微分方程式の解法について復習しておくこと 第13回の授業までにテキスト等により、デルタ関数とその応用について予習を行うこと (標準学習時間60分)
1 4 回	第1回から第13回までの講義のノートの復習を行なうこと (標準学習時間120分)
1 5 回	第1回から第14回までの内容をよく理解し整理しておくこと (標準学習時間180分)

講義目的	1年次に学ぶ微積分法の学習範囲より進んだ、工学を学ぶ上での必需品であるフーリエ級数・ラプ
------	--

	ラス変換についての知識を例題、問題などの演習を通して身につけることを目標とする。実際、学科で2、3年次以降に学ぶ数学の特定分野の予習になっている。(学習評価4領域の「知識・理解」に強く関与する)
達成目標	1. フーリエ級数について説明ができる。(知識・理解) 2. ラプラス変換について解法の説明ができる。(知識・理解) 3. 学習過程で生じる数学的課題や疑問に対して、数式を用いて解答することができる。(思考・判断・表現) 4. 学習過程で生じる数学的課題や疑問に対して、適用可能な数学的定理や公式を自ら選択することができる。(思考・判断・表現、関心・意欲・態度) 5. ラプラス変換による微分方程式の解が計算ができる。(技能)
キーワード	フーリエ級数, 偏微分方程式, ラプラス変換, 定数係数微分方程式, 単位関数, デルタ関数
試験実施	実施しない
成績評価(合格基準60点)	総合演習 評価割合40%(達成目標1-3を確認)、学修達成度確認試験 評価割合60%(達成目標2-5を確認)により評価し、総計が60%以上を合格とする。
教科書	応用解析 / 矢野健太郎・石原繁 / 裳華房 / ISBN978-4-7853-1097-4
関連科目	数学 (特に積分) を学んできていること。上級数学Iを履修していることが望ましい。
参考書	各学科で指定している解析又は微積分の教科書
連絡先	研究室: B3号館4階 中川研究室 オフィスアワーはmylogを参照してください。
授業の運営方針	・授業は基本的に板書形式で進めるので、ノートをしっかりと取ること。 ・講義だけでなく演習を重視し、授業中に演習時間を十分設けます。 ・何度かレポートを課し、自分で考え、問題解決の努力が出来ているかどうかをチェックします。 ・授業は学習への意欲を持って臨んでください。授業中の質問は随時受け付けます。分からないことをそのままにしないようにしてください。
アクティブ・ラーニング	・演習 講義の説明や例題などから理解した解答方法を適用して、演習問題を解きます。演習後、解答を発表してもらう場合があります。 ・担当教員の解説を聞き、自分のやり方が正しかったかどうかを判断し、理解を深めます。
課題に対するフィードバック	・課題・レポートの提出後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。 ・総合演習、学修達成度確認試験を行った後、解答の解説を行うか、あるいは模範解答をMomo campusに掲載する。
合理的配慮が必要な学生への対応	・本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供しますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。
実務経験のある教員	
その他(注意・備考)	高校で学習した数学の基本的な内容を復習することを望む。

科目名	技術者の社会人基礎(再) (FT000607)
英文科目名	Social communication for engineers
担当教員名	田邊麻里子* (たなべまりこ*)
対象学年	1年
単位数	2.0
授業形態	講義

回数	授業内容
1回	* ガイダンス：講義内容、進め方、注意点、期待値、評価方法の説明をする。 * 文章力や読解力に関して自己レベルの確認をし、今後の予習や復習計画の立案を行う。
2回	* ビジネスマナーにおける敬語の種類と基本的な使い方を学ぶ。
3回	* テーマに応じた敬語の使い方を学ぶ。
4回	* 手紙/はがき/メール/電話の常識的な使い分けについて学ぶ。 * 封書(宛名・差出人)の書き方のきまり/手紙の書式を学ぶ。
5回	* テーマに基づいた手紙を作成する。
6回	* 手紙の構成を考え、適切な表現を学ぶ。
7回	* テーマに基づいたはがき文を作成し、文章作成における自己の弱点と強みを自覚する。
8回	中間まとめ
9回	* 社外から/社内他部署から/上司から/家人から/間違い電話など様々なテーマに応じた電話対応をロールプレイを通じて学ぶ。
10回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
11回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
12回	* ケーススタディ に取り組み、働く現場で求められる態度や言葉の使い方、判断の方法を学ぶ。
13回	* 組織における行動のあり方を説明する。 企業の組織を理解し、働く意義を考え、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
14回	* 優れた経営者/実業家のエピソードを通して、仕事の仕方やマネジメント・リーダーシップ論を学ぶ。
15回	* 組織における行動のあり方を説明し、企業の組織を理解したうえで、どんな働き方をしたいのか/どんな会社が自分にとって良い組織なのかを検討する。
16回	総括 全講義を通して自覚した自分の強みと弱点を振り返り、初回で作成した学習計画の修正と今後社会人として必要と思われる知識の習得プランを検討する。

回数	準備学習
1回	シラバスをよく読み、講義の目的を理解しておくこと。 自己の文章力や読解力の不足部分を学習し、次回の講義に備えること。 (標準学習時間 120分)
2回	配布資料をよく読んで理解しておくこと。(標準学習時間 120分)
3回	前回までの講義内容を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
4回	正しい敬語とよく使われる漢字をマスターしておくこと。 (標準学習時間 120分)
5回	書式と書き方のルールを把握しておくこと。 手紙の構成を考えておくこと。(標準学習時間 120分)
6回	指導に基づいて作成した手紙文の見直しをしておくこと。 (標準学習時間 120分)
7回	配布資料を読んでおくこと。 これまでの講義で理解できなかった箇所や疑問点を整理しておくこと。 (標準学習時間 120分)
8回	第1回から第7回までの講義で学んだことを振り返り、できなかった点を復習しておくこと。(標準学習時間 120分)
9回	ノートを見なくとも電話対応の基本的な言葉が云えるように学習しておくこと。 (標準学習時間 120分)
10回	配布資料に目を通しておくこと。(標準学習時間 120分)
11回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
12回	配布資料をよく読み、状況を把握しておくこと。(標準学習時間 120分)
13回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)
14回	配布資料を読んでおくこと。(標準学習時間 120分)

15回	配布資料を読んでおくこと。（標準学習時間 120分）
16回	今までの小テスト結果、講師による校正済みの課題に目を通し 同じ間違いを繰り返さないようにしておくこと。（標準学習時間 120分）

講義目的	本授業では、技術者としての知識と専門性を遺憾なく発揮するために、必要なスキルや知識を習得することを目的とする。 実際の現場での電話のやり取りや報告連絡の方法を実践的に学ぶことで、状況に応じた態度と言葉の使い方に慣れるとともに、ノンバーバル（非言語）のコミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築方法を理解する。また、会社の仕組みや社会で働くことの意味を理解することで、技術者としての責任と義務を自覚できるように講義をすすめる。なお、本講義では、学生同士のやり取りや教員と学生のやり取りを大切にするアクティブ・ラーニングの手法を取り入れる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
達成目標	社会人として必要な知識を習得し、それを活用してビジネス文書や挨拶状を書くことができる。 ビジネスマナーにのっとった電話対応ができる。 コミュニケーションの重要性を理解し良好な人間関係の構築ができる。 会社の形態や働く意義について理解できる。 ビジネススキル3級程度の経済知識と判断力を習得できる。 4領域の項目の「技能」にもっとも強く関与、「関心・意欲・態度」にある程度関与。
キーワード	ビジネスマナー、敬語、手紙、メール、経営者、マネジメント、リーダーシップ
試験実施	実施しない
成績評価（合格基準60点）	提出課題50%・講義ごとの小テストの結果50%により成績を評価し、総計で60%を合格とする。
教科書	特定の教科書は指定しない。
関連科目	社会と人間、企業と人間
参考書	適宜、指示する。
連絡先	非公開を希望する
授業の運営方針	講師から提示される課題に取り組みることにより、現状のビジネスマナーのレベルや考え方の未熟さを自覚させ知識の習得の必要性を実感させる。
アクティブ・ラーニング	
課題に対するフィードバック	課題への取り組み方や考え方について解説を行い、模範解答を示す。 また、可能な限り各人の解答に対してコメントを与えアドバイスを与える。
合理的配慮が必要な学生への対応	本学の「岡山理科大学における障がい学生支援に関するガイドライン」に基づき合理的配慮を提供していますので、配慮が必要な場合は、事前に相談してください。 講義中の録音/録画/撮影は不許可とする。 やむを得ない場合に限り、講師が個々の状況に応じて録音/録画/撮影に代わる処置を事前に講ずることもある。
実務経験のある教員	専門である人事全般（採用戦略、教育戦略、評価システム構築及びブランド戦略）に関する永年の経験を活かし具体的なビジネスマナーの習得を目的とする実践的な講義を行う。
その他（注意・備考）	参加型・実践型の講義のため、受講希望者多数の場合は抽選する場合がある。受講者数の上限を70名とする。